

紙媒体が及ぼす効果

本論文の目的は、紙媒体の存在価値をなくさないために紙媒体と電子書籍の比較など紙媒体を中心に効果や学力との関係性を考察することである。

第1章から第4章まで、本の定義から紙書籍や電子書籍による学習による影響などをまとめた。その結果、第1章では、雑誌の売り上げが下がった原因にインターネット上でのジャンプの画像解禁、雑誌のサブスクリプションサービスが影響していると考えられる。一方、マンガの場合、収集や購入方法・自分の隙間時間などそのときの状況に合わせて読む媒体を変えて両方使いをしている人が多く存在していた。このことから紙書籍の売り上げが下がったとしても一定の需要があり、紙書籍のマンガは無くなることはないと考えられる。

第2章では教科書のような文章よりマンガの方が記憶に残りやすいという研究をまとめた。その結果、マンガの方が短期・長期記憶、内容の理解もしやすいことが分かった。しかし、①国語などの物語をマンガにする場合、物語の背景の描写がされてしまい、子ども達の創造力や語彙力低下に繋がる。②歴史などの物語もマンガにしてしまうと、情報過多となり何を覚えるべきで何が重要なのが分からなくなってしまう恐れがある。あくまでも物語をより深く知るための補助教材としてマンガを扱うことがふさわしいと考える。

第3章では紙書籍と電子書籍の学習能力をまとめた。理解度や記憶力を求める場合や取扱い説明書などの説明文を見る場合は紙媒体の物を見ると頭に入ってきやすくなるという結果となった。しかし、これらの研究は2012、4年の研究結果となっているため、現在より電子媒体に触れ慣れていない人が被験者となっている可能性がある。現在で同じ条件の研究を行なうと電子媒体の方が理解と記憶力などが異なる研究結果となる可能性がある。

第4章では読書の効果をまとめた。読書効果についての研究は海外の人が行なった資料が数多く存在したが、日本の研究はあまり存在しなかった。このことから日本人の読書離れや関心の薄さが伺える。海外の研究と日本のアンケート調査では同じ結果が出ていることから外国人も日本人も読書することは幸福度と繋がっていることが分かった。しかし、働いている人や普段読書をする習慣がない人はなかなか本を読めない為、本を読める人はある程度自分の時間を確保出来ていたり、読書のようにストレスが貯まりにくい趣味などを持っている可能性がある。このような余裕さが幸福度に繋がっているのものであって、読書そのものの効果とは異なると考えられる。

これらのことから、電子媒体の出始めと現在では研究結果が異なると考えられる。だが、記憶力や理解度などを求められる子ども世代は電子媒体に触れ慣れていないと考えられるので紙媒体を用いて学習を行なうべきであり、時代に合わせた紙書籍と電子書籍の利用方法を行なうことが紙書籍の存続の為にも学習のためにも良いと考察した。